※令和４年度以降入学生用

学校番号	１１０

令和８年度　芸能文化科

教科	芸能文化	科目	演技表現法（演劇）	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	なし						
副教材等	自主教材プリント等						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

「演じる」とは、「その人物の気持ちになって演技すること」だと一般的には考えられていますが、実はまったく違います。様々なエクササイズと、「マクベス」のシーンスタディを通して「演じる」とはどういうことか、学んでいきます。各時間の授業に集中して取り組むと同時に、毎時間しっかり振り返りを行い、理解と実践を深めていってください。

2　学習の到達目標

（１）　日本や海外の演劇理論を学び、演劇に対する知識を習得する。
（２）　知識を活用するための身体作りを通して幅広く表現できる力を身につける。
（３）　実際の戯曲を演じるために、学んだことを主体的に活用できる力を身につける。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	ロシアのスタニスラフスキーが提唱し、アメリカのメソッド、イギリスおよびヨーロッパで広くスタンダードとなっている演劇理論がどのようなものか理解する。世界の演劇の歴史、日本の伝統的な舞台文化や明治以降の演劇の歴史も理解し、演劇に対する認識を深める。	自分の身体をチューニングし、他の人と確かに交流する練習をすることによって演技の基礎作りをする。設定された状況、キャラクターを適切に理解し、他の人物との関係を踏まえ、その人物の自然な行動を行うことができるようにする。	有名な戯曲（シェイクスピア等）の一部を演じることによって、戯曲の世界観、状況、キャラクターを自分なりに工夫して表現するとともに、他の人物との共同作業を通じて、その場面の演技をよりよいものにする努力しようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	基本1	スタニスラフスキーシステムの理解	a:スタニスラフスキーシステムの基本的な用語を理解する。 b:様々なエクササイズを通して、スタニスラフスキーシステムの表現を実践する。 c:毎時間の授業で習ったことを動画に撮ってクラスルームに送信することで、しっかりと振り返りをしようとしている。	エクササイズの発表	エクササイズの発表	振り返りの送信
	基本2	スタニスラフスキーシステムの実践	a:　スタニスラフスキーシステムの基本的な用語を理解する。 b:　様々なエクササイズを通して、スタニスラフスキーシステムの表現を実践する。 c:毎時間の授業で習ったことを動画に撮ってクラスルームに送信することで、しっかりと振り返りをしようとしている。	レポート提出	エクササイズの発表	振り返りの送信
後期	実践1	シェイクスピアの「マクベス」の理解と読解	a:「マクベス」の全体のあらすじと登場人物、時代背景を理解する。 b:登場人物のキャラクターを理科し、表現に取り組む。 c:毎時間の授業で習ったことを動画に撮ってクラスルームに送信することで、しっかりと振り返りをしようとしている。	エクササイズの発表	エクササイズの発表	振り返りの送信
	実践2	シェイクスピアの「マクベス」のシーンスタディ	a:「マクベス」の登場人物のセリフからその心理や行動の目的を理解する。 b:衣装をつけてシーンの演技をグループで発表する。 c:毎時間の授業で習ったことを動画に撮ってクラスルームに送信することで、しっかりと振り返りをしようとしている。	レポート提出	シーンスタディの発表	振り返りの送信

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度